

JRC 2009

輝く放射線医療 今そして未来

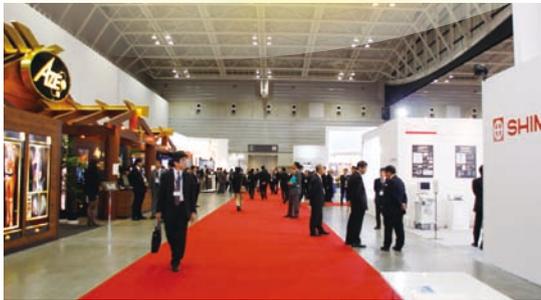
—人と技術のハーモニー—

JRS 第68回
日本医学放射線学会総会

JSRT 第65回
日本放射線技術学会総会学術大会

JSMP 第97回
日本医学物理学会学術大会

ITEM 2009
in JRC 2009 国際医用画像総合展



JRC 2009が、4月16日(木)～19日(日)の日程で、パシフィコ横浜を会場に開催された。日本医学会総会の開催年以外は例年4月上旬に開催されてきたJRCであるが、今年は2週間ほど遅い日程となり、みなとみらい周辺の桜も陽光を受けて、鮮やかな緑の若葉を身にまとっていた。

さて、2009年は、JRCの開催地・横浜にとって記念すべき年である。1859年7月1日(安政6年6月2日)、日米修好通商条約に基づいて横浜港が開港。今年はその150周年目となり、記念イベント「開国・開港Y150」が行われている。開港以来、西洋との交易の窓口として、その後の日本発展に大きく寄与しつつ発展を遂げてきた横浜。その歴史を振り返ってみると、改めてこの地でJRCが開催されることは意義深いものがある。世界の放射線医療の最先端の知見が共有される場として、そして海外発、あるいは日本発の最新の画像診断機器の技術が披露される場として、横浜はいまでも日本の窓口となっている。



JRC 2009のテーマは、「輝く放射線医療 今そして未来 —人と技術のハーモニー—」。著しい進歩を続ける画像診断機器の技術を用いて、放射線科医や診療放射線技師などの医療従事者が質の高い医療を提供するために、今、そして未来に向けて何が必要かを話し合う場となるよう、このテーマが掲げられた。

2日目の17日(金)8時30分からは合同開会式が行われ、有限責任中間法人日本ラジオロジー協会(JRC)の遠藤啓吾代表理事、第68回日本医学放射線学会総会(JRS)の山田章吾会長(東北大学)、第65回日本放射線技術学会総会学術大会(JSRT)の小水 満大会長(大阪大学)、第97回日本医学物理学会学術大会(JSMP)の齋藤秀敏大会長(首都大学東京)、2009国際医用画像総合展(ITEM in JRC 2009)を運営する(社)日本画像医療システム工業会(JIRA)の猪俣 博会長が出席した。挨拶に立ったJRSの山田会長は、



遠藤啓吾 JRC代表理事



山田章吾 JRS会長



小水 満 JSRT大会長



齋藤秀敏 JSMP大会長



猪俣 博 JIRA会長

放射線医療が発展する一方で深刻なマンパワー不足が起きていると指摘。教育や研究の時間がとりにくく、放射線医学の崩壊が危惧される状況にあるとし、JRC 2009では、未来に向けてこの課題について議論を深めてほしいと述べた。また、山田会長は、今回のプログラム構成についても触れ、多忙な放射線科医、診療放射線技師のために教育講演を充実させていると説明した。

JSRTの小水大会長は、大会テーマに記された「人と技術のハーモニー」に基づいたプログラムを組んだと説明。特にJSRTが進めているST（スーパーテクノロジスト）を育成するための講演を企画しているとし、STセミナーとして「放射線技師のための画像診断学入門」を設け、これに関連して福井大学の伊藤春海研究室を再現した展示も行うと紹介した。

また、JSMPの齋藤会長は、JSMPが2010年に創立50周年、100回目の大会を迎えることについて触れたほか、文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プランによって、大学に医学物理士コースが設けられたことで、医学物理の役割が定義され、醸成されるとし、学会のさらなる発展に期待を示した。



JRSの山田会長が開会式で、早朝から教育講演を設けプログラムを充実させていると述べたとおり、JRC 2009は演題数が非常に多くなっており、これまで3日間だった会期が4日間に増やされ、初日の16日（木）には、JRSの教育講演やIVRに関するセッションが設けられた。また、会場もパシフィコ横浜会議センター、アネックスホールに加え、国立大ホールも使用され、その1階にあるマリノロビーはCyPos会場となった。

JRCの合同企画としては、17日（金）の17時から、合同特別企画トークショー「『多重がん』撃退中！—がんなんてなによ—」が行われた（13ページ参照）。女優の大空真弓氏をゲストに迎え、JRSの山田大会長が司会を、川島博子氏（金沢大学）と小山智美氏（聖路加国際病院）がホストを務め、多重がん

との闘病経験談が披露された。また、合同特別講演は2題設けられた。17日（金）には、川島隆太氏（東北大学加齢医学研究所）の「脳科学から新産業を創生する」（5ページ参照）、18日（土）には海堂 尊氏（医師・作家）の「Aiは、医療そして社会制度の基盤になる」（5ページ参照）が行われた。

合同シンポジウムは今回、4つのセッションが設けられた。いずれもJRC 2009のテーマである「輝く放射線医療 今そして未来——人と技術のハーモニー」をセッション名に掲げ、個別のテーマに基づいて「診断」（6ページ参照）、「社会に貢献する放射線技術とその課題」（7ページ参照）、「治療」（8ページ参照）、「IVR」（9ページ参照）がサブタイトルに掲げられた。

また、合同教育講演「Monte Carlo Dose Calculation for Radiation Therapy Treatment Planning」、合同フォーラム「電子カルテ・フィルムレス時代の放射線診療」（11ページ参照）、ハーモニーセミナーが2セッション（12ページ参照）、産学連携セミナーが3セッション、さらに、CTコログラフィートレーニングコース（32ページ参照）が設けられた。

このほか、体験教育的なユニークな試みとして、19日（日）には「Kid's Seminar」が催された（29ページ参照）。大野和子氏（京都医療科学大学）が司会を務め、「魔法の光！よくわかる放射線」をテーマに、小学生向けに実験や画像処理ワークステーションの操作体験が行われた。



学会別にプログラムを見ると、JRSでは、がん対策推進基本計画による国全体でのがん医療への取り組みが進む中、治療に焦点を当てたシンポジウムが設けられた。17日（金）はシンポジウム1「IMRT vs 粒子線」（14ページ参照）が行われたほか、18日（土）にはシンポジウム5「PET/CTと治療計画」（19ページ参照）をテーマにしたセッションが組まれた。また、19日（日）にはシンポジウム6として、「肺がんCT検診認定医講習会」（20ページ参照）が開かれた。このセッションは、特定非営利活動法人肺がんCT検診認定機構の設立を受けたもので、これを受講



登録機による合同のJRC受付



パシフィコ横浜展示ホールのITEM受付



国立大ホールでの開会式

することが肺がんCT検診認定医師の認定の要件となる。

JSRTでは、17日(金)に澤 芳樹氏(大阪大学)の特別講演「心筋再生治療の現状と展望」(23ページ参照)が行われた。シンポジウムでは、画像の品質保証をテーマにした「新しいユビキタスへの道」(24ページ参照)、増加するフィルムレス運用を意識した「『医療情報のセキュリティ』について—技術と運用のバランス—」(25ページ参照)などがあった。

昨年までは展示ホールを会場にしていた“CyberRad 2009”は、CyPosの移動に合わせて国立大ホールへ移動した。テーマは、「Filmless時代に放射線医療は、どう立ち向かうか?!」。国立大ホールN101で行われたチュートリアルAでは15題、マリノビーを会場にしたチュートリアルBでは9題、計24題の講演があった。このほか、恒例のIHEのデモンストレーションは「CD-Rによる画像連携(PDI)」をテーマに9社が参加。一般演題は9題の発表があった(30ページ参照)。

なお、ITEM 2009は、17～19日の3日間、展示ホールで開催された。出展社数は144社で、出展面積は8781m²となった(33ページ参照)。



JRC 2009最終日の19日(日)に行われた閉会式では、JRCの遠藤代表理事から、参加登録者数が初めて1万人を超えたことが発表された。JRSが4775名、JSRTが4260名、JSMPが577名、非会員が1004名で、合計1万616名を記録した。遠藤代表理事は、教育に重点を置き、プログラムを充実させたことがこの結果に結びついたと評価した。

一方で、ITEM入場者数は2006年から続いた2万人を割り、1万9074名となった。前年比88.9%の低水準であり、特にJSRT会員は65.1%であった。これは学会のプログラムが充

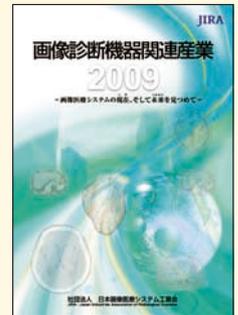
実していたことも一因として挙げられるが、世界的な不況が出展社側と入場者側双方に影響したと思われる。

JRC 2010は、2010年4月8日(木)～11日(日)の4日間、パシフィコ横浜会議センター、国立大ホールを会場に行われる(ITEM 2010は、9～11日の3日間、パシフィコ横浜展示ホールで開催)。第69回日本医学放射線学会総会の会長は杉村和朗氏(神戸大学)、第66回日本放射線技術学会総会学術大会の大会長は石井 勉氏(駿河台日本大学病院)、第99回日本医学物理学会学術大会の大会長は加藤博和氏(岡山大学)がそれぞれ務める。メインテーマは、「未来の放射線医学は今」となっている。

JIRAが『画像診断機器関連産業2009』を発行

(社)日本画像医療システム工業会(JIRA)は、ITEM初日の4月17日(金)に記者発表会を行い、『画像診断機器関連産業2009』の刊行を発表した。2006年から発行を開始した同書は業界の白書と呼べるもので、今回は標準化活動などの内容も盛り込み、JIRAの活動や社会への提言を行っている。

頒布価格は、JIRA会員が3150円、非会員が5250円(いずれも税込み、送料別)。申し込みは、Webサイト(<http://www.jira-net.or.jp/publishing/publishing.html>)から購入申込書をダウンロードの上、FAX03-3818-8920まで。



大空真弓さんを迎えた合同特別企画トークショー「Kid'sセミナー」



JSRTの伊藤春海研究室



マリノビーのCyPos会場



国立大ホール1階へ移動したCyberRad 2009



閉会式に出席したJRC 2010のJRS・杉村和朗会長(左)、JSRT・石井 勉大会長(中)、JSMP・加藤博和大会長(右)